

光と緑の風通信

発行/2026年3月9日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

博士後期課程大学院生の研究活動の1コマ

『The 29th EAFONS 2026』において発表します！

大学院看護学研究科長 坂本 祐子

博士後期課程の大学院生では、在籍期間の大半を博士論文のための研究活動に費やし、その過程において研究成果(経過)を学術論文や学会発表として報告する機会があります。

タイトルにあるEAFONS(EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS)は、東アジア地域の看護系大学博士課程の大学院生・修士生、大学院教育に携わる教育者・研究者を対象とする国際研究フォーラムです。第29回は、2026年2月26日～28日シンガポール国立大学で開催され、大学院生向けのワークショップなどもプログラムされています。

博士課程開設後初めて複数の大学院生が演題登録し1名が採択され、博士論文の研究の一部を発表することになりました。演題登録のメ切りが近づいたある日、大学院生の「トライしてみようかな？」から抄録作成・登録、並行して博士論文の研究も怠ることなく取り組む姿は頼もしくあり、後期課程を開設してよかったと思う瞬間でした。

この通信が届くころには、発表を終えています。第71号で東アジア地域の大学院生との交流も含め国際学会発表の感想など、院生の言葉で皆様にお伝えできたならと思っています。

(さかもと ゆうこ)



(<https://eafons2026.sg>)

安心して就職活動に臨むために

～看護学部生向け就職支援セミナー～

ニュース&トピック

学生生活委員会・就職活動担当 佐藤 利憲、片桐 和子、齋藤 史子、
大内 美奈、太田 昌一郎

近年、看護職を目指す学生の就職活動は早期化が進んでいます。看護学部学生生活委員会では、2022年より株式会社マイナビの協力のもと、学部生を対象に就職支援セミナーを開催しています。今年度は、7月11日に就職活動のスケジュールや合同説明会の活用ポイントを学ぶ「スタートアップ講座」、12月22日に採用担当者に伝わる履歴書の書き方や面接マナー、自己PR・志望動機の整え方を学ぶ「選考対策講座」を実施しました。1月26



日の「模擬面接体験会」では本番を想定した質疑応答に加え、採用担当者の視点も体験し、4年生の代表者が就職活動を振り返り、経験談をお話していただきました。各アンケートでは「とても分かりやすい」「具体的な対策が理解でき不安が和らいだ」「心構えができた」との回答が多数寄せられました。本セミナーは、学生が安心して将来を見据え、一歩ずつ就職準備を進めるための大切な学びの機会となっています。

看護学部での一年を通じて



看護学部1年 佐々木 陽色



看護学部に入學してから一年はとても充実したものでした。私は地元秋田を出て新しい

土地で新しい生活を始めました。初めて経験することばかりで胸の躍るような日々を過ごすことができました。

同じ看護の道を志す仲間とともに過ごす中で、次第に看護学部生としての

自覚が芽生え始めました。講義では生理学や解剖生理学などの看護学の基礎となる分野を学び、命と向き合う職業の重みを少しずつ実感するようになりました。十一月中に行なった基礎看護学実習Iでは、実際に看護の対象と向き合い、看護や医療における患者さんの観察やコミュニケーションによる情報収集やチームの仲間との情報交流の重要性を肌で感じるようになりました。

この一年を通じて、看護の道を選んだことの責任を自覚することができました。これからも志を共にする仲間たちと共に学び続け、患者さんの生活の向上に寄与できる看護師を目指して精進していききたいと思います。(ささき ひいろ)

基礎看護学実習IIを通して



看護学部2年 佐藤 綾香



二年生では、健康上の問題を持つ対象の生活に着目した看護過程を展開できる能力を培う

と共に、看護の展開を通して看護に対する考えや対象との関係性について考えを深めることを目的として基礎看護学実習IIを行いました。

実習を通して、看護過程を展開する上では必要な情報を正確に収集し知識

と関連させながらアセスメントすることが重要であると身をもって学ぶことが出来ました。一方、対象への傾聴が足りなかつたことが自分自身の課題となりました。客観的な視点で対象を捉えることも重要ですが、患者さんの声からしか得られない情報も多くあります。今後の実習では対象へのより深い把握に努め、適切なアセスメントや看護援助に繋がっていききたいと思います。

基礎看護学実習IIでは、実際に病棟で対象と関わり自ら看護過程を展開したことでも多くの学びや課題を得られました。三年生では領域別実習があり、より高度な知識や技術が求められます。今回の学びを今後に生かし、自己研鑽していききたいと思います。(さとう あやか)



学生生活紹介



領域別実習での学び



看護学部3年 山口 亜由夢



今回の実習を通して、各領域で違う疾患、違う発達段階の対象に

出会い、「看護」について学びを深めることができました。

看護過程を展開する中で、特に学びになったと思う、二つの視点があります。一つは「対象の疾患がどのような問題を有しているか、

問題が予測されるか」を考え、その問題を解決していく問題志向型の看護です。もう一つは「対象の強み、可能性、目標・思い」を考え、そこに焦点をあてて援助していく目標志向型の看護です。対象が疾患によってセルフケア能力が低下しているか、それとも疾患による症状が回復し、セルフケア能力が回復しているかを見極めることが、対象の個性を活かした看護につながることを学ぶことができました。

今後看護についての学びを深め、さらなる知識・技術の習得を目指し、自分の中の看護師像を描けるよう努めていきたいと思っています。(やまぐち あゆむ)

学生生活での変化



看護学部4年 安田 慎太郎



大学に入學してから今まで長いようでも短い時間でした。私は、両親

が看護師なので幼い頃から看護師にはなりたくないと思っており、入学した時も辛い四年間になるだろうと考えていました。「二年生の時の座学は正直退屈で看護に何が

関係しているのかわからなくて、やっぱりこんなもんなのかなと思っていたところもありました。

しかし、三年生になり領域別実習を通して、患者さんの回復していく姿を支えることの難しさに直面し、看護って面白いなと感じました。また、両親に対しても初めて尊敬の気持ち芽生えました。看護学部に入つて良かったと思っています。

私は春から東京で働くことになりました。不安はありませんが、同じ看護師として、両親を超えることが目標であり最高の親孝行になると思つて粘り強く頑張りたいと思っています。(やすだ しんたろう)

大学院で 臨床の疑問と向き合う 学びの時間



大学院博士前期課程1年 丹治 結稀



私は現在、看護師として勤務しながら、今年度より大学院の基礎看護学領域で学んでいます。

臨床経験の中で後輩看護師の育成に携わる際、「看護師として成長するとはどのようなことなのか」「現在の関わりはより効果的な育成につながっているのか」といった、看護師の成長・発達に関する言葉にしばしば疑問や違和感を感じ、解決方法に悩むことも少なくありませんでした。大学院では、臨床での経験を理論と結びつけながら、理論の学習や研究を通して、自身の力で解決していく方法を修士論文の作成過程を通して学んでいます。教員や仲間とともに、そうした疑問や違和感について検討するゼミの時間は、普段とは異なる視点や思考に触れながら、主観的に感じていたことを客観的に捉え直す貴重な機会となっております。その際に自身の言葉で表現でき、解決の糸口に近づいたと感じた時は学ぶ喜びや楽しさを実感しています。今後も探究心を大切にしながら、大学院での学びを臨床現場に還元できるように、努力を続けていきたいと考えています。

(たんじ ゆうき)

ウィンドアンサンブル部



看護学部3年 近藤 璃莉



わたしたち、ウィンドアンサンブル部は、医学部十二名、看護学部六名、保健科学部七名の計二十五名で活動しています。毎週水曜日に活動しており、普段はそれぞれが個人練習を行ったり、合奏を行ったりしています。週に一回の活動で自由に参加できるため、

学業と両立しやすいところがウィンドアンサンブル部の魅力であると感じています。また、毎年学祭でパフォーマンスをしており、それに向けた練習にも励んでいます。それぞれが演奏したい曲を出し合い、定番の曲や流行りの曲を演奏しているため、楽しく活動できるのも魅力です。

毎年、食事会やさくらんぼ狩りなども行っており、部員同士の関係性を深めながら、学年関係なく、仲良く楽しく活動しています。大学で初めて楽器に触ったという部員もいますが、経験者の部員が楽器の持ち方や楽譜の読み方から教えてくれるので、全員が一体感を持って活動できています。今後も部員全員で楽しみながら活動していきたいです！

(こんどう りり)

CAMPUS LIFE 部活動紹介

男子サッカー部



看護学部4年 齋藤 実花



こんにちは！男子サッカー部です。男子サッカー部は、プレーヤー二十七名、マネージャー五名の計三十二名で、週四日活動しています。練習日数は多いですが、その分学年を超えて仲が良く、チームワークの良さが魅力です。年に四回の大きな大会に出場しており、二〇二三年国公立大会優勝、二〇二四年東医体三位、二〇二五年北医体優勝と、チーム一丸となった結果を残しています。

サッカーに真剣に取り組む一方で、遠征や大会、スキー合宿、ボリング大会など、全力で楽しむイベントも多く、オンとオフのメリハリを大切にしています。

マネージャーは、ボトル作りやタイムキーパー、備品管理、遠征時のサポートなど幅広い役割を担い、プレーヤーと同じ熱量でチームを支えています。また、練習や大会でのサポートはもちろん、マネージャー同士でご飯に行ったり遊びに行ったりすることもあります。人数が少ない分、助け合いながら活動でき、達成感や一体感を強く感じられる部活動です。

(さいとう みか)

研究活動紹介

看護学部教員が取り組んでいる研究や活動を紹介しています。

成人
看護学
領域

看護実践研究を続けること

成人看護学領域 教授 菅野 久美



私の研究テーマは、臨床で出会った患者さんから託された宿題でもあります。「なぜ患者さんは、これほど辛さや我慢を強いられるのか。少しでも早く苦痛が緩和され、病院でも心地よい時間を過ごすことはできないのだろうか。」現在は、クリティカルケア領域、とくにICUで大きな手術を受けた患者さんの”コンフォート(心地よさ)”に着目しています。

患者さんの主観的体験に加え、心拍変動解析HFVI(High Frequency Variable Index)を用いて自律神経バランスを客観的に測定し、多様な要因が絡み合うコンフォートの実態調査に取り組んでいます。これらの成果は、ICU看護の質を高めるケアの開発につながると期待されます。

また、他大学の研究者や本学の化学療法室看護師と協働し、災害発生時にがん薬物療法に携わる看護師を対象としたシミュレーション教育にも取り組んでいます。

患者さんから託された宿題への応えとして、コンフォートを大事にする看護ケアを1日も早く臨床へ還元できるよう、看護実践に根ざした研究を続けていきたいと考えています。(かんの くみ)

老年
看護学
領域

老年看護学領域では、それぞれの研究活動から地域貢献へ発展させた活動に努めております。

老年看護学領域 教授 坂本 祐子

県内の摂食嚥下障害看護認定看護師の方々と「誤嚥を予防するポジショニング&食事ケア技術研修会」を企画・開催しています。これまで、のべ90名の方が受講しています。

(さかもと ゆうこ)



健康や看護・介護のことを、もっと身近に気軽に看護師へ相談できるよう地域の薬局で研究活動しています。また薬局の薬剤師と共に健康教室などのイベントを企画・運営しています。

(杉本 幸子)

高齢者のポリファーマシーに関する研究を行なっています。高齢者と薬は切っても切れない関係なので、この研究を通して地域で暮らす高齢者の健康維持に貢献していきたいと考えています。

(那須 史明)

高齢糖尿病患者への外来看護実践に関する研究を行っています。高齢者の在宅療養生活を支える一助になればと考えております。また、県内の病院の看護研究にも携わっております。

(齋藤 史子)

編集後記

看護学部 ニュースレター「光と緑の風通信」第七十号をご覧いただき、ありがとうございます。

今年度は、日本初の女性総理大臣が誕生した年でもあります。本学でもダイバーシティの推進に取り組んでいますが、性別を問わず誰もが活躍する時代へと変化しております。本号のトピックである学生生活委員会は、このような変化する時代の中で活躍していく基盤となる大切な学生生活を支えるためにあるものです。

また、前号よりシリーズ化しております研究活動紹介は、本学部の教員が取り組んでいる研究の内容を紹介するものです。毎号各領域の教員がそれぞれの専門分野での研究について紹介致しますので、ぜひご覧ください。

末尾となりますが、多くの在学生及び教職員の皆様にご尽力頂き、本号を発行することができましたこと、心より御礼申し上げます。このニュースレターがご家庭での話題の一つになりましたら、これ以上の喜びはございません。今後も大学生活の様子が見える楽しいニュースレターとなりますよう、広報委員一同頑張つて参りますので、どうぞよろしくお願致します。

副編集長 蓬田 美保

編集委員

編集長 木村 涼子

蓬田 美保

安部 猛

井上 水絵

佐藤 いずみ

佐藤 利憲

鈴木 学爾

高崎 千聡

関亦 明子